

JISA、IPA/SEC 共催

「高品質な設計書を実現する技術紹介セミナー」開催

平成 24 年 6 月 27 日、JISA は IPA/SEC((独)情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター)との共催、JUAS(日本情報システムユーザー・協会)、DSF(Dependable Software Forum)との共催で、「高品質な設計書を実現する技術紹介セミナー」を開催した。参加者は 94 名であった。セミナープログラムは下記の通り。

13:15	開会
13:15～13:25	全体概要 (株)エヌ・ティ・ティ・データ 技術開発本部 ソフトウェア工学推進センタ 課長 塚本 英昭氏
13:25～14:15	セッション1: 設計書の欠陥を除去する技術とそれを取り入れた作業手順 ～「形式手法活用ガイド」のご紹介～ (株)エヌ・ティ・ティ・データ 技術開発本部 ソフトウェア工学推進センタ 主任 田端 一也氏
14:15～14:30	質疑応答
14:30～14:45	<休憩>
14:45～15:15	セッション2: 東京証券取引所の設計書を対象とした形式手法適用実験 結果報告 (独)情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員 向山 輝氏
15:15～15:30	質疑応答
15:30～15:45	<休憩>
15:45～16:30	セッション3: 高品質な設計書を実現するために ～IPA/SEC形式手法入門教材紹介 (独)情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 調査役 新谷 勝利氏
16:30～16:45	質疑応答
16:45	閉会

本セミナーでは形式手法を適用し、設計書の論理矛盾を早期に検出することで、テスト段階での手戻りをできるだけ防止する技術を紹介した。形式手法には多岐に亘る技法が存在するが、ここでは代表的な 3 つの技術 VDM、SPIN、Event-B のみを取り上げ、従来よりも容易に形式手法が利用できることを説明した。

一方で、形式手法の活用には、数学的な知識や設計書から形式手法の記述に変換する技術が必要であったり、一般的なレビューに加えて、形式手法を使った検証を重ねて実施するコスト負担を顧客が受容するかなど、導入にはいくつかの障害があることも明らかになった。

DSF がとりまとめた「形式手法活用ガイド」と当日の資料は、それぞれ次のサイトからダウンロードできる。活用をお奨めする。

■DSF「形式手法活用ガイド」

<http://www.nttdata.co.jp/dsf/index.html>

■高品質な設計書を実現する技術紹介セミナー配付資料(会員限定)

<http://www.jisa.or.jp/tech/> ダウンロードサイト

(鈴木)